

## おわりに

「はじめに」で述べたような経緯で本集録の刊行準備を開始したが、これとほぼ同時期に東北地方太平洋沖大地震 (Mw=9.0) が勃発し、未曾有の東日本大震災が起こった。本集録の世話人は、早速、京大の地震予知研究者に、今回の大地震と京大の地震予知研究のこれまでの研究の進め方に関する見解の執筆を依頼したが、現役・OB のいずれもの方が、まだ、時期尚早とのことであった。そこで、東北地方太平洋沖大地震と京大の地震予知研究との関連に関する記述は次回以降に回すこととし、今回の集録 (Ⅲ) では、従来の方針通り、「京大地球物理学研究の百年」の集録Ⅰ、Ⅱで漏れた歴史的史実の記載のほか、理学部の地鋳教室・宇物教室及び工学部で行われた地球物理学研究の紹介と「思い出に残る京大の講義・演習・実験・論文指導等」の原稿を集約した。「地鋳教室・宇物教室及び工学部で行われた地球物理学研究」では、「松山基範に始まる京大地質学鋳物学教室における物理地質学的研究(西村・西田)」、「宇宙物理学教室における地球物理学および惑星科学研究(小暮)」、「宮本正太郎先生と私(加藤)」、「工学部・電離層研究施設の歴史と人々(大家)」の4編の原稿をいただいたが、工学部で行われてきた地球物理学的探査に関する歴史記述の原稿を含めることができなかったのが残念である。

「京大地球物理学研究の百年」を調べる過程で、編集世話人会では、志田 順先生、松山基範先生の学士院賞に関する記載が京大正史から漏れていることを発見し、その事実を学士院賞受賞者である加藤進京大名誉教授(1952年卒)を通じて京大当局に伝えたところ、当局は誤りを認め、2011年9月9日に京大ホームページの「恩賜賞・日本学士院賞・日本学士院エジンバラ公賞」のページ(下記)

([http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/intro/honor/award\\_b/academy\\_award](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/intro/honor/award_b/academy_award))

に志田先生、松山先生の業績が書き加えられた。今後、京大正史から、志田 順先生、松山基範先生の学士院賞に関する記載が漏れることは無いであろう。

歴史資料の保存については、その記録が消滅しつつあるのが問題である。それを防ぐために、地球惑星科学専攻図書室に歴史書架を設け、そこに資料を蓄積することが必要であろう。各研究室に残っている歴史資料を再点検して、発見されれば、この歴史書架に移して公開していただくことが望ましい。

今回の集録Ⅲの編集を通して、京大地球物理の従来あまり知られていなかった側面が多々発掘されたのは編者としても嬉しいことであった。今後さらに新しい資料や関連事項があれば随時ご連絡をお待ちしている次第である。

おわりにあたって、この集録が多くの人々に読まれ、京都大学地球物理学研究の歴史が世代を超えて語り継がれることにより今後の研究発展に繋がることを編集者として強く念願している。

2011年10月1日

(竹本 修三、廣田 勇)